

「いかに楽しいことでしょう/主に感謝をささげることは」(詩編9 2篇2節)

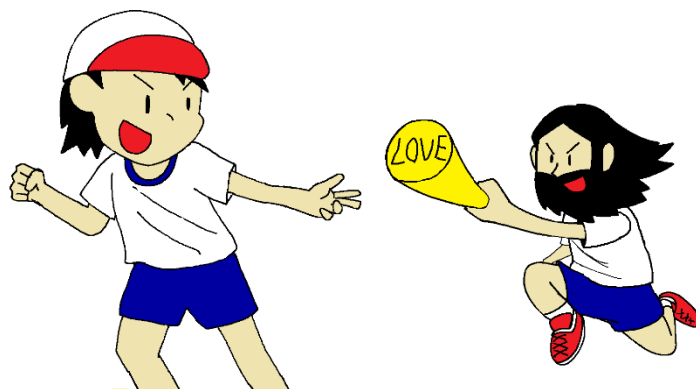
「ありがとうのバトン」

チャプレン 吉川光太郎

小さい頃に学ぶべき大事な言葉の一つとして「ありがとう」が挙げられます。何かをしてもらう。その相手に対して感謝の思いを表す。このことなしに人間関係を深めることはできないでしょう。しかし、この教えは一步間違えれば「ありがとう」を単なる義務としてしまう恐れがあります。何かをしてもらったら「ありがとう」と言わなくてはならない。何かをしてあげたら「ありがとう」と言ってもらうのは当然の権利だ。ありがとうの大切さは分かりますが、この考え方はそこに喜びはありません。ある意味でビジネスライクに陥ってしまうのではないのでしょうか。するとやがて、もともと好意だったものは「貸し借り」に、ありがとうと口にするのは「負い目」になってしまい、人間関係も血の通わないつまらないものになってしまうでしょう。私たちのイメージする感謝の表し方とは、キャッチボールのようなものです。受けたものを相手に返します。二人だけの関係です。しかし聖書においてはそうではありません。二人だけの関係にはとどまりません。聖書の言葉には「主に感謝をささげる」とありますが、これは神様に感謝をささげるからこそ、受け取った良いものをさらに別の誰かに渡していくことなのです。それはたとえるならば、バトンを渡していくリレーのようなものでしょう。イエス様から愛の業が生まれる。それを受け取った人がその愛によって押し出され、別の人に愛を渡していく。喜びの思いをもって、誰かを助ける。誰かに分け与える。そのことによって神様のみもとに生きる私たちの交わりはどこまでも深く、素晴らしいものになっていくのです。

先日、3、4、5歳児の運動会が行われました。その種目の中にはバトンを渡していくリレーがありました。競技ですから当然みんなが同じスピードで走るということはありません。早い子がいれば、少し遅い子だっています。きれいに走りぬいた子がいれば、バトンを落としたり、転ぶ子だっています。そして1位があればビリだっている。本人たちの中には嬉しさや口惜しさが溢れることでしょう。1位になりたいと誰もが願います。しかし、見ている側はこのレースをどう見るのでしょうか。1位だから素晴らしい。遅かったら意味がない。そんな風には考えないはずで。たとえ遅かろうと諦めずに走り続けた。転んでも役割を捨てて逃げなかった。一度はバトンを落としたりしてももう一度拾い上げて走り始めた。そのような姿に、1位になることと同じ感動や素晴らしさを感じるでしょう。子供たちの成長を見ることができるとは幸いです。

私たちの愛に対する応答、つまり誰かに愛を渡していく働きは自分から見れば不完全なものかもしれません。時には失敗し、諦めそうになることがあるでしょう。しかし、そんなあなたがイエス様から委ねられた愛を思い起こし、感謝に溢れるならば、あなたはもう一度走り出すことができます。その姿はバトンを受け取ろうとしている相手や、周りの人々をも喜びで溢れさせ、そこには素晴らしい交わりが生まれます。そのことを主なるイエス様はどれほど喜ばれるのでしょうか。子供たちが、皆さまが、感謝と愛の発信地になることを祈っています。





10月のお知らせ

保育理念	受ける愛	与える愛
-愛されていることを知り・愛する者となるために-		

「体を動かす楽しさ」

前日の夜まで天気を心配しながら迎えた3.4.5歳児の運動会、子どもたちや、皆様の願いが天に届き滞りなく終わることが出来ました。皆様方には沢山の応援とご協力を頂きましたことを感謝申し上げます。コロナ禍にあつて、人数制限や検温、消毒、マスク着用などにもご協力を頂きましたことも、重ねてお礼申し上げます。会場設定をはじめ、時間や競技種目、雨天時の対応など様々に協議を重ねた末の運動会であったことを、ご理解いただけますと幸いです。

1.2歳児の運動会は、10月3日です。初めて経験する運動会を、お家の皆様と一緒に楽しむことができます様にと願っております。

さて、今月の主題は、「楽しむ」です。10月を迎え夏の暑さが和らぎ、爽やかで過ごしやすい季節になりました。体を動かすには絶好な季節です。

幼保連携型認定こども園教育・保育要領「健康」には「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う」そして、ねらいには、「・明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。・自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。・健康で、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付け、見通しをもって行動する。」と記されています。

それでは、体を動かして楽しむとはどのような時に感じるのでしょうか。

- ①したいことをしたいようにする楽しさ ②全力を出して活動する楽しさ
③出来なかったことが出来るようになる楽しさ ④知らなかったことを知る楽しさ ④考えを出し、工夫し創り出す楽しさ ⑤みんなの役に立つ善いことをする楽しさ ⑥存在を認められる楽しさ ⑦共感する楽しさ ⑧より良いものに出会う楽しさ ⑨好きな人と共にある楽しさ
・・・等々。

幼稚園では園生活の中で、自分でできることは自分です。出来ない時には、手伝ってほしいと言葉で伝えることを大事にしています。その一端として、机を運ぶ、椅子を運ぶ、布団を敷きたたみ、袋に入れる、自分の布団を所定の場所に運ぶ、自分の荷物は自分で持つ、ばら・ゆり組は食後にホールに雑巾がけをする、当番の仕事に責任を持つ、などです。運動会では、日常生活の中で培われた力が発揮されたように思われました。足腰の強さ、遊びの中で友だちと協力したり、競い合ったりする経験を重ねることで、いろいろな感情を味わい、様々な場面に対応できる心の働きを身に付けたと思われました。真剣に取り組み、勝っても負けても最後まで頑張ることが出来た姿に嬉しさと、楽しさと喜びを感じていたと思われました。気持ちの良い季節「体を動かす楽しさ」を十分に味わってほしいと願っています。